

経団連モビリティ委員会 3 委員長あいさつ文

【十倉雅和委員長】

委員の皆さまにおかれましては、本日はご多忙の折、オンラインでのご参加を含め、大変多くの皆さまにご参加をいただき、ありがとうございます。

モビリティ委員会のキックオフにあたり、改めて委員会の設立趣旨を申し上げたいと思います。

ご高承の通り、今、世界が急激に変化していくなかで、日本が産業の国際競争力を強化し、新たな価値の創造により、力強い経済成長を遂げるため、2050年カーボンニュートラルの実現に向けたGXやDXを加速するとともに、今後の日本経済を牽引する産業の育成が急務であります。

こうした問題意識のもと、経団連では、「バイオ産業」「クリエイティブ産業」そして「モビリティ産業」の振興を図るべく、3つの委員会を新たに立ち上げました。

とりわけ、自動車をはじめとするこのモビリティ産業は、裾野の広い日本の基幹産業であり、「成長と分配」の好循環を実現する上でも大きな役割を担っております。

また、モビリティというその名の通り、「移動の自由」は、言論の自由とともに我々のウェルビーイングに関わる普遍的価値です。

新しい領域で技術革新が進む中、「移動」に関する業種・業界が幅広く関わり合うことで、国民生活のさらなる豊かさの実現につながっていくものと思います。

さらにカーボンニュートラルの実現に向けて、我が国がしっかりと責務を果たしていくためには、エネルギーを「つくる」「はこぶ」「つかう」全てのプロセスにおいて、協力・連携を深め、さまざまな社会実装を加速していく必要があります。

折しも、来年には、G7 サミットが広島で予定されています。G7 は、日本の事情に応じた、日本ならではのカーボンニュートラルの実現方法をアピールし、「多様な選択肢」を各国のリーダーに示す貴重な機会になります。

カーボンニュートラルを前に進めていくのは、規制ではなく、私たち民間の力です。この委員会で伺った皆さまのご意見を踏まえ、政府とも対話を重ねてまいりたいと思います。

今回、豊田委員長とご相談のうえ、業界を越えた連携を深めるべく、経団連にモビリティ委員会を立ち上げ、委員を募集したところ、幅広い業種・業界から 200 社を超えるお申し込みをいただき、本日も 300 名を超えるご参加をちょうだいしております。

モビリティ産業に対する会員企業の皆さまのご関心の高さに、経団連全体として取り組むことの重要性を改めて認識した次第であります。

なお、本委員会は、日本自動車工業会会長でもある豊田委員長、日本自動車部品工業会の会長でもある有馬委員長、そして私の 3 名で委員長を務めてまいります。

まさにこれからの日本の競争力のカギを握るともいえるモビリティ産業をペースメーカーに、日本の競争力強化に向けて、産業界全体で取り組んでまいりたいと思いますので、皆さまのお力添えをいただけますよう、どうぞよろしく願いいたします。

【豊田章男委員長】

先月、モビリティ委員会の進め方をご相談させていただいた際、十倉会長からは、「自動車は波及効果が大きく、今後、GX や DX により、さらにすそ野が広がっていく。だからこそ、産業界全体で取り組むべき」というお考えを伺いました。

自動車にそうした期待をかけていただいていること、そして、十倉会長自ら、委員会をリードいただけることは、本当にありがたく、また心強く思っております。

十倉会長がおっしゃったとおり、「移動の自由」と「カーボンニュートラル」は、自動車業界を越えた議論が必要なテーマです。特にカーボンニュートラルは、私たちの暮らしそのものや、「移動」のあり方に変化を迫るものであり、全国民、全産業で取り組むべき大きな課題です。

これまで自動車産業も、私たちなりに動き続けてまいりました。過去 20 年でみると、燃費の向上や、ハイブリッド車を中心とした電動車の普及など、「みんなの力」で取り組みを進め、CO2 排出量を 23%削減してきました。これは国際的にみてもトップレベルです。

また、日本政府より 2050 年カーボンニュートラルが宣言されて以降は、「敵は炭素。内燃機関ではない」「CO2 は、エネルギーを『つくる』『はこぶ』『つかう』の全員で減らしていくもの」「カーボンニュートラルという山の登り方は一つではない」「規制で技術の選択肢を狭めるべきではない」。こうしたことを言い続けながら、「カーボンニュートラルの正しい理解」を呼びかけてまいりました。

そのうえで、「行動」を通じて、EV、水素、合成燃料など、さまざまな選択肢の可能性を追求し、志をともにする仲間を増やしてまいりました。次のステップは、この仲間の輪をさらに広げ、「社会実装」を加速していくことだと思っております。

これからは、業界・業種を超えて、みんなで動くことが何より重要になってまいります。自動車業界だけでは限界があると感じていた中で、この場をつくってくださった十倉会長や関係の皆さま、そして、「一緒にやろう」と手を挙げてくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

課題は山積しておりますが、モビリティの未来、日本の未来のために、皆さまとともに「オールジャパン」で前に進んでまいりたいと思っております。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

【有馬浩二委員長】

十倉会長や豊田委員長がおっしゃったように、「移動の自由」や「カーボンニュートラル」の実現に向け、「オールジャパン」で活動を進めるうえで、私自身の役割としまして、特に、サプライチェーン全体の連携と、中小企業の皆さまとの連携にこだわってまいりたいと思います。

カーボンニュートラルやDXでは、個社では対応しきれない課題が多々あり、カーメーカーやTier2以下との連携に加えて、インフラやエネルギー、素材、物流業界との連携が欠かせません。

Tier1を主体とする部品工業会は、多様な仲間との接点を持っておりますので、皆さまとの接着剤となり、サプライチェーン全体の課題解決に貢献してまいりたいと思います。

モビリティ産業を支えている企業の多くは中小企業です。私は、中小企業の競争力強化こそが、モビリティ産業の今後の発展のカギではないかと考えております。

したがって、中小の実態を反映することで、モビリティ委員会の活動を、より実効性のあるものにしていく、そのために、部品工業会が動き、汗をかき、当委員会を盛り立ててまいります。

モビリティの未来と日本の競争力強化に貢献できるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。